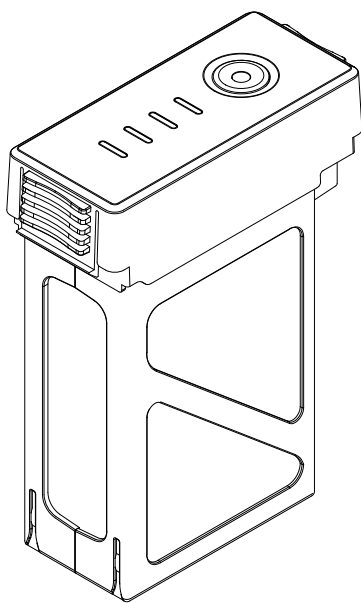


# MATRICE 600 シリーズ

## インテリジェント・フライト・バッテリー 安全ガイドライン

V1.2 2023.07



## 注記

この文書は、インテリジェント・フライト・バッテリー TB47S および TB48S に適用されます。手順書および付属書はすべて、SZ DJI TECHNOLOGY CO., LTD 独自の裁量で変更されることがあります。最新の製品情報については、<http://www.dji.com> にアクセスして、本製品に対応する製品ページをクリックしてご覧ください。

## 用語集

本製品の関連資料では、以下の用語で製品操作時に起こりうる危険のレベルを示しています。

- 注記** 注記: 手順を正しく実行しないと、物的損害や人的な負傷の可能性が発生します。
- 注意** 注意: 手順を正しく実行しないと、物的損害、および人的な重大事故の可能性が発生します。
- 警告** 警告: 手順を正しく実行しないと、物的損害、および巻き添え事故、人的な重大事故の可能性が発生するほか、高い確率で軽傷を負います。

### 警告

ユーザーマニュアル全文をよく読んで、機能に習熟してから、本製品を操作してください。本製品を安全かつ責任を持って操作しないと、傷害や本製品またはその他の財産の損害を招くおそれがあります。

本製品は高度な機能を備えています。慎重かつ良識をもった操作とともに、基本的な機械知識が求められます。本製品は、大人の監督下にない子供の使用を想定していません。互換性のないパーツを使用しないでください。また、SZ DJI TECHNOLOGY CO., LTD が提供する資料に記載されている以外の方法で本製品を改造しないでください。本安全ガイドラインには、安全、操作、メンテナンスの手順を記載しています。本製品を正しく操作し、損害や重傷を避けるためには、組み立て、設定、使用の開始前に、ユーザーマニュアルに記載されている手順と警告をすべて読み、これに従うことが重要です。

## インテリジェント・フライト・バッテリー安全ガイドライン

### 警告

火災、重傷、物的損害を避けるため、バッテリーの使用、充電、保管時には、以下の安全ガイドラインを順守してください。

### バッテリーの使用

1. バッテリーはいかなる液体類にも接触させないでください。バッテリーを雨にさらしたり、水分の近くに放置したりしないでください。バッテリーを水中に落とさないでください。バッテリー内に水分が入ると、化学分解が発生し、バッテリーが発火して、爆発につながるおそれがあります。
2. DJI 製以外のバッテリーを使用しないでください。新しいバッテリーを購入するには、[www.dji.com](http://www.dji.com) にアクセスしてください。DJI 製以外のバッテリーに起因する損害に対して、DJI™ は一切責任を負いません。
3. バッテリーに膨張、漏れ、損傷がある場合は使用しないでください。バッテリーに異常がある場合は、DJI または DJI 正規販売店にご連絡ください。
4. バッテリーは、初めて使用する前にフル充電する必要があります。
5. 機体の電源がオンの状態で、バッテリーの装着や取り外しをしないでください。バッテリーのプラスチェックカバーに破れなどの傷がある場合には、バッテリーの装着や取り外しをしないでください。
6. バッテリーは -10 ~ 40°C の温度で使用する必要があります。50°C 超の温度環境下でバッテリーを使用すると火災や爆発を引き起こすおそれがあります。-10°C 未満でバッテリーを使用すると、回復不能な損傷につながる場合があります。
7. 強い静電環境や電磁環境でバッテリーを使用しないでください。こうした環境でバッテリーを使用すると、フライト中にバッテリーコントロールボードが誤作動し、重大な事故につながるおそれがあります。
8. バッテリーの分解や穴あけは絶対にしないでください。バッテリーの漏れ、発火、爆発が起こるおそれがあります。
9. バッテリーの電解質には非常に高い腐食性があります。電解質が皮膚に触れたり、眼に入ったりした場合には、ただちに流水で 15 分以上洗い流してから、すぐに医師の診察を受けてください。
10. 墜落や激しい衝撃を受けたバッテリーは使用しないでください。
11. フライト中に、バッテリーが機体とともに水中に落下した場合は、すぐに水中から取り出して、安全で開けた場所に置いてください。完全に乾燥するまで、バッテリーから安全な距離を保ってください。バッテリーは今後一切使用せず、以下の「バッテリー

の廃棄」のセクションの記載に従って、適切にバッテリーを廃棄してください。バッテリーを熱さないでください。バッテリーが発火した場合には、砂や乾燥粉末消火剤を使って消火してください。

12. バッテリーをコンセントや車のシガーライターソケットに直接接続しないでください。バッテリーは必ず付属のバッテリー充電器に接続してください。
13. 火中にバッテリーを投げ入れたり、熱源にさらしたりしてはいけません。
14. バッテリーの使用途中や保管中に異常なおい、変色、変形などの異常に気付いた場合は、バッテリーを使用しないでください。バッテリーの使用途中または充電中の場合は、電源またはバッテリー充電器からバッテリーを取り外して、適切に処分してください。
15. 電子レンジや高压容器内にバッテリーを入れないでください。
16. 金属製テーブルなど導電性を有する物の表面上に、カバーから取り外した電池をそのまま置かないでください。
17. カバーから取り外した電池をポケット、バッグ、引き出しに入れないでください。他のものに接触したり、バッテリー端子が相互に押し付けられたりすると、短絡を引き起こすおそれがあります。
18. バッテリーを落下させたり、叩いたりしないでください。バッテリーや充電器の上に重量のある物を置かないでください。バッテリーを落とさないようにしてください。
19. バッテリー端子は清潔な乾いた布で清掃してください。端子が汚れていると、意図せずエネルギーを消費していたりバッテリーを充電できなくなったりすることがあります。
20. バッテリーの損傷を避けるために、2 個以上のインテリジェント・フライト・バッテリーを手動で電源オンにしないでください。6 つのバッテリーのいずれかの電源をオンにすると、残りのバッテリーの電源は自動的にオンになります。これが失敗する場合は、DJI GO アプリの指示に従ってください。
21. バッテリー残量とバッテリーサイクル回数を定期的に確認してください。このバッテリーの定格は 200 サイクルです。定格サイクルを超えて使用するとバッテリーの安定性が影響を受けます。この場合、必ずバッテリーを交換してください。交換しない場合、ユーザーが定格サイクルを超えて使用したバッテリーに起因する機器の損傷とサードパーティの損害に関する責任を負います。

## バッテリーの充電

1. 必ず DJI 認定の充電器または充電ハブを使用してください。DJI 充電器または充電ハブを使用してバッテリーを充電しなかった場合、DJI は一切責任を負いません。
2. 充電中にバッテリーを放置しないでください。可燃物の近くやカーペット、木などの燃えやすい物の上でバッテリーを充電しないでください。
3. フライト直後はバッテリーが過熱しているため、すぐに充電しないでください。常温に冷めるまで、バッテリーを充電しないでください。バッテリーを 5 ~ 40℃ の温度範囲外で充電すると、漏れ、過熱、バッテリーの損傷に至るおそれがあります。
4. 10 ~ 15 回の充電／放電サイクルごとにバッテリーを完全に放電／充電してください。電力が 0 % になるか、電源がオンにできなくなるまでバッテリーを放電してから、バッテリーを最大容量まで充電してください。この電力サイクルにより、バッテリーの寿命が延長し、バッテリーゲージのキャリブレーションが最適化されます。
5. 使用しないときには、充電器を取り外してください。プラグ、筐体、その他の部品に損傷がないか、充電器を定期的に確認します。変性したアルコールまたはその他の可燃性溶剤で、充電器を清掃しないでください。損傷した充電器は使用しないでください。

## バッテリーの保管

1. 子供やペットの手の届かないところにバッテリーを保管してください。
2. 暖炉やヒーターなどの熱源の近くにバッテリーを放置しないでください。暑い日にバッテリーを自動車内に放置しないでください。理想的な保管温度は 22 ~ 28℃ です。
3. バッテリーは乾燥した状態で維持してください。水中にバッテリーを落とさないでください。
4. バッテリーを落としたり、叩いたり、突き刺したり、手動でショートさせたりしないでください。
5. バッテリーを眼鏡、時計、宝飾品、ヘアピンなどの金属に近づけないでください。
6. 損傷したバッテリーや、電力の残量が 50 % を超えるバッテリーを搬送しないでください。

## バッテリーの廃棄

1. 完全に放電してから、指定のリサイクルボックスに入れてバッテリーを廃棄してください。通常のゴミ容器にバッテリーを入れないでください。バッテリーの廃棄やリサイクルについては、現地の規制を厳守してください。

## バッテリーのメンテナンス

1. 環境温度が高すぎるまたは低すぎる場合、バッテリーを充電しないでください。
2. 60℃ を超える環境にバッテリーを保管しないでください。

## 移動に関する注意

1. インテリジェント・フライト・バッテリーを航空機に持ち込む場合は、あらかじめバッテリー残量を 30% 未満に放電しておく必要があります。バッテリーが空になるまで機体を飛行させることで放電できます。バッテリーの放電は耐火性のある場所でのみ実施してください。

## 電池の寿命を縮める要因

1. 過放電によりバッテリーセルが損傷する可能性があります。
2. バッテリーセルの温度が 70℃ を超えるか、-10℃ を下回る場合。
3. バッテリーを長時間使用しない場合。
4. 保管温度が 60℃ を超える場合。

### 注 記

#### バッテリーの使用

1. 各フライトの前に、必ずバッテリーが完全に充電されていることを確認してください。
2. 各フライトの前に、6 つのバッテリーコンパートメントに同じ型のバッテリーを搭載する必要があります。
3. DJI GO アプリでバッテリーレベル低下警告が表示されたら、すぐに機体を着陸させてください。

#### バッテリーの充電

1. インテリジェント・フライト・バッテリーは、フル充電に達すると充電を停止するよう設計されています。しかし、充電の進捗状況を確認して、完全に充電したらバッテリーを取り外すことをお勧めします。

#### バッテリーの保管

1. バッテリーを 10 日以上使用しない場合は、40 ~ 65 % までバッテリーを放電してください。これにより、バッテリー寿命を大幅に延長できます。
2. 10 日間以上使用しない場合は、バッテリーが膨張しないように、自動的に 65 % より低いレベルまで放電します。DJI GO アプリで、アイドリング時間のしきい値を変更できます。65 % までバッテリーを放電するには、約 3 日間かかります。放電の過程で、バッテリーから多少の熱が放出されても問題ありません。バッテリーは専用バッテリーボックスに入れて保管することをお勧めします。
3. バッテリーを長期間空の状態保管すると、バッテリーは休止モードに入ります。バッテリーを 5 分間放置すると、電源がオフになります。バッテリーを再充電して、休止状態から回復します。
4. 長期間保管する場合は、機体から電池を取り外してください。
5. バッテリーを完全に放電した後で、長期間保管してはいけません。バッテリーが過放電し、電池が損傷して修理不能になるおそれがあります。

#### バッテリーの廃棄

1. インテリジェント・フライト・バッテリーの電源オン／オフボタンが無効で、バッテリーを完全に放電できない場合、電池の廃棄／リサイクルを専門とする代理店に問い合わせ、サポートを受けてください。
2. バッテリー寿命が 0 % になったら、バッテリーを適切に廃棄してください。

#### バッテリーのメンテナンス

1. 電池が損傷するおそれがあるため、過充電しないでください。
2. 長時間使用しないと、バッテリー寿命が短くなることがあります。
3. バッテリーを良好な状態に保つために、少なくとも 3 カ月に 1 回はバッテリーを完全に放電／充電してください。

## 移動に関する注意

1. インテリジェント・フライト・バッテリーは、通気のよい場所に保管してください。

本内容は変更されることがあります。

最新版は下記よりダウンロードしてください。

<http://www.dji.com/matrice600-pro>

If you have any questions about this document, please contact DJI by sending a message to [DocSupport@dji.com](mailto:DocSupport@dji.com).

MATRICE™ は DJI の商標です。  
Copyright © 2023 DJI All Rights Reserved.

